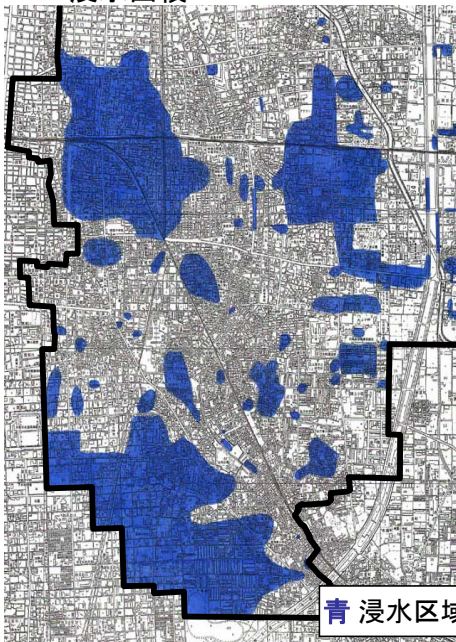


下水道による浸水対策の整備効果事例(東大阪市)

- 雨水管きよや雨水貯留施設を整備した結果、浸水に対する安全性が大きく改善された。

昭和57年8月降雨

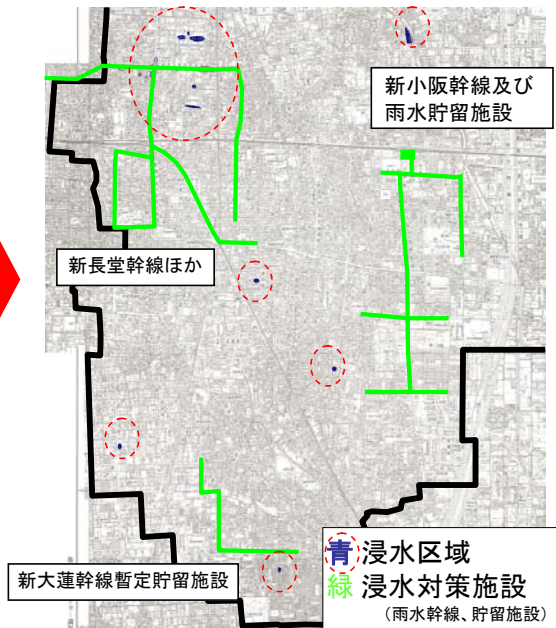
連続雨量	112mm
時間最大雨量	40mm
浸水戸数	12,318戸
浸水面積	743ha



整備前

平成16年10月降雨

連続雨量	111mm
時間最大雨量	38mm
浸水戸数	27戸
浸水面積	5ha



整備後

昭和59年より継続的に貯留管等を整備した結果、同等規模の降雨に対し約6万 m^3 の雨水を貯留するなど有効に機能、浸水戸数は激減。投資額238億円に対し、被害の軽減額は約83億円と想定。(平成16年10月降雨と同等規模の3回の降雨で投資額を上回る浸水被害軽減効果を発現する計算)

